

<http://www.araya-kk.co.jp/bicycle/>

Cr-Mo Vintage

EXS/Excella Sportif

RAN/Swallow Randonneur

FED/Araya Federal

Alloy Moderne

EXR/Excella Race

CX/MuddyFox CX

MFE/MuddyFox Expert

MF9/MuddyFox 29er

●自転車を選ぶとき

- ① 販売店にご相談の上、乗車経験や目的にあった自転車をお選びください。自転車は各用途に合った設計がされていますが、想定される用途以外のご使用や、走行中に起こりうる過激な衝撃に対しては、保障の対象外となる場合もあります。
- ② 体に合った自転車をお選びください。カタログに表示の適正身長は目安であり、個人差によって乗車可能範囲に多少の差が生じます。

●自転車をお買い求めのとき

- ① お買い求めになられましたら、必ず取扱説明書を受け取り、販売店で防犯登録をしてください。

●自転車に乗るとき

- ① 取扱説明書をよくお読みになり、特に安全についての内容を十分に理解してからお乗りください。
- ② よくわからないところは、販売店にご相談ください。
- ③ 乗る前に必ず点検し、異常がある場合はそのまま使用しないでください。
- ④ お子様がお使いになる場合には、保護者の方が正しい乗り方を指導してください。
- ⑤ クイックリリースハブの固定確認を必ずしましょう。確実に固定しないと前輪はずれによる事故発生の原因となります。取扱説明書に従って、正しく操作してください。
- ⑥ カタログ写真はベル、リフレクター等は装着されていませんが、必ず装着してください。
- ⑦ スポーツバイクは昼間走行を想定しています。夜間走行時はライト、リフレクターを必ず装着してください。
- ⑧ 確実な錠前をお求めになり、駐輪時には盗難防止のため、施錠をしてください。

スポーツバイクは、一般的な自転車に比べ、速度も出やすく、走行距離も伸ばすことができますが、走行速度の上昇に伴って、万一の走行事故による危険性も大きくなります。乗車の際はヘルメットや、グローブ等を必ず装着して、万一の事故から身を守りましょう。またマウンテンバイクでのオフロード走行時には、必要に応じて転倒時に体を守るプロテクター等も装着してください。

**新家工業株式会社**  
ARAYA INDUSTRIAL CO., LTD.

大阪府中央区南船場2丁目12番12号  
輪界営業部 TEL06-6253-6317 FAX06-6253-0237  
E-mail cycle@araya-kk.co.jp

 ARAYA

●製品カラーは印刷のため実物と多少異なる場合があります。●価格・仕様は平成23年10月現在のものです。改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。





**ARAYA Rims**  
— AR-713 —

加速性の向上も体感できる高剛性のAR-713。カラーコーディネートを考えてシルバー/CNCフィニッシュを特別に用意しました。32Hでしっかりと組まれたホイールは、メンテナンス性にも優れます。



EXS 550mm BL  
(エクセラ・スポルティフ ディープブルー)



EXS 510mm Y  
(エクセラ・スポルティフ マスタードイエロー)

ARAYA SHIMANO NITTO Sugino Panaracer KAZU TANGE SEIKI BROOKS

**スポルティフ、憧れから実現へ。**

かつて、ツーリストだけでなく、レースを愛好するアスリートも、最後に求めたのはスポルティフでした。快走のための機能美だけでなく、優雅な美も有したスポルティフは、オーナーの所有する喜びも高いスポーツ車。舗装率が高まり路面状況が良くなった現在、もっとも適したツーリング車とも言えます。

エクセラ・スポルティフでは、トラディショナルな工法に則ったスポルティフ本来の美しさの中に、リヤ10速コンポジットなど、現在のロードバイク機能も積極的に取り入れました。総重量10キロ台に纏め上げ、キャリアフエンダーを外せば9キロ台のヴェンテージな雰囲気味わえるロードとしても十分に機能するタイトなフレーム設計も大きなポイント。



— スペシャルメイドフロントキャリア —  
中空のスチールチューブを美しいロウ付で構成した、小振りで非常に軽量のキャリアは、エクセラ・スポルティフのために特別に日東で製作されました。ヘッドチューブとマッチングが考慮された背もたれ部分、ダウンチューブと平行に配されたステーなど様式美に則った設計です。ステーは、フォークブレード内側に設けられた台座に取り付けられ、キャリアを外した際にも台座が目立ちにくくなっています。フエンダー(ドロヨケ)も、35mm幅で深さを抑え、少し厚めのアルミ合金を左右の折り返し無しでロールフォーミングした独自断面。全長やステー取付も様式美を追求し、ポリッシュで仕上げました。

— 進取と伝統のコンポーネント —  
リヤ10段シフトのロードコンポSHIMANO-105とエッジの効いたデザインでアルミポリッシュと部分的に施されたCNC加工仕上げが美しいチェーンホイールSUGINOマイティツアーを採用。自転車の主軸であり、また顔でもあるドライブトレインには、進取と伝統の融合・両立が図られています。ロストワックス製法の超小型リヤエンドには、SHIMANO-105前後ハブを組み込みました。またドロヨケステーは、フエンダー本体とともに、18-8ステンレスで製作されたオリジナルダルマネジで固定。ドロヨケのクリアランスを最適に保つために、ステー長さの調整が可能になっています。



**EXCELLA**

**EXS EXCELLA Sportif**  
¥210,000 (税別¥200,000)

日本におけるスポーツ自転車文化の愉しみ方、自転車創りの文化は、世界に誇れるものがあります。半世紀以上に欧州からスポーツ車文化を導入し、また近代においてはMTBなど米国発祥の新しい自転車を積極的に取り入れながらも、日本独自の文化を育んできました。シングルスピードあるいは小径車など、現代では世界に向けた日本発信の自転車も少なくありません。

現在、スポーツバイクが普遍化し、カテゴリーもロード、クロスバイク、MTBに留まりません。また伝統的な自転車の美しさも再認識されてきました。使われ方もスポーツ用途だけでなく、ツーリング、通勤、健康志向などに多方面に積極的に利用され、気持ちよく移動することに関心の比重も高まり、より身近なものにもなっています。

ARAYAは今まで、日本人の体格、日本の地形、そして日本人の感性に合ったスポーツ車を提案してまいりました。そして今、独自性のある日本のスポーツ車をあらためて見直すこと。またハードを追求するだけでなく、感性をも加え、持つて嬉しい、乗って楽しい自転車を目指すこと。ARAYAブランドのテーマです。

**Cr-Mo Vintage**

- EXS/Excella Sportif
- RAN/Swallow Randonneur
- FED/Araya Federal

**Alloy Moderne**

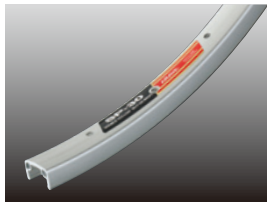
- EXR/Excella Race
- CX/MuddyFox CX
- MFE/MuddyFox Expert
- MF9/MuddyFox 29er

**ARAYA**  
ARAYA INDUSTRIAL CO., LTD.

日本を走るために生まれた、  
日本を知り尽くした自転車。







**ARAYA Rims**  
— SP-30 —

ランドナーなどツーリングモデルの定番ともなったスクエアなデザインの23mm幅W/Oリム。強度レベルの高いMTBリム等との比較試験を行い、従来より強度基準を向上させ、新型断面設計を施しました。

**FED ARAYA Federal**  
¥52,500 (税別¥50,000)



FED 500mm BL  
(アラヤ・フェデラル ディープブルー)



**ARAYA Rims**  
— TM-840F —

ダブルウォール(二階建構造)断面で設計され、強度アップと軽量化の両立が実現。スポークアイレット(ハドメ)も設けられ、高いスポークテンションに対応し、クラシックなデザイン性も向上しています。

**RAN SWALLOW Randonneur**  
¥157,500 (税別¥150,000)



RAN 540mm G  
(スワロー・ランドナー ダークモスグリーン)

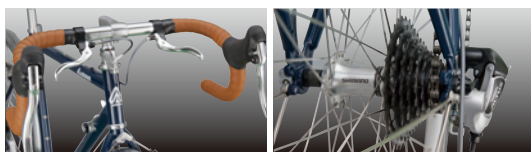
**サイクリング車への回答。**  
スポーツ自転車の原点は、移動する愉しみであり、ツーリング、スポーツライディングから街乗りまで多くの意味合いを含んだ「サイクリング」にあります。スポーツ車が多くなるパリエーションから選べるようになったのは嬉しいことですが、気持ちよく移動するためのスポーツ車を選ぶのは案外難しいものです。  
かつて、ランドナーの豪華な仕様を簡素にまとめ、サイクリングのための自転車としてフェデラルカテゴリーが提唱されました。それを現代に訳した回答がここにあります。シンプルでデザインの中にサイクリングというベシッ的な性能を凝縮させ、所有するためのハードルを下げた中にも高機能とハイグレードな仕様を奢りました。  
日本の標準ホイールサイズとも言える26×38を装着したプロポーションは、ある意味新鮮なスポーツ車に進化。ホイールの補修性にも優れます。



FED 540mm R  
(アラヤ・フェデラル マルーンレッド)



FED 540mm K  
(アラヤ・フェデラル グロスブラック)



— 全てにおけるハイグレードスペック —

メンテナンスを重視したフルSHIMANOコンボ、ALTUSリヤ8段仕様だけでなく、安全性を高めるためブレーキにはSHIMANOカンティブレーキを採用し、ハンドル上部に配されたセーフバーにより、安定した制動操作も可能になっています。またギャクランクには4アームデザインのSR-SUNTOUR XCTチェーンホイールでグレード感を向上。全てにおいてツーリングに十分応えるハイグレードな仕様を誇ります。26×1-3/8ホイールは、最も普及したサイズで高い補修性を実現。700Cと26H/Eホイールの中間になるサイズは、アラヤ・フェデラル独自のプロポーションを演出するとともに、日本人に一番適したホイールサイズとも言えます。

**これからできる、小さな旅。**  
1967年、当時では希少で入手困難であった欧州部品を積極的に採用し、要であるフレームキャリアは内製化。徹底的にキャンピング自転車の理想を追求したのがスワロー・キャンピング(S・C)でした。結果的に当時の大卒初任給の三倍の価格になってしまいましたが、スポーツ車にも「二台にまさるこの一台」というツバメ自転車のコンセプトを貫いたものでした。  
ランドナーはフランスで発祥し、長い年月をかけて日本独自の旅のための自転車として発展してきました。スワロー・ランドナーは、S・Cの血統を引き継ぎ、熟成した日本ブランドコンボを積極的に取り入れ、ツーリング車としての機能と美しさを凝縮した自転車です。  
遠い昔に体験した、あるいは夢見た遠乗りまではできなくとも、ランドナーで週末の小旅行を愉しんでみてはいかがでしょうか。



RAN 500mm R  
(スワロー・ランドナー マルーンレッド)

ARAYA SHIMANO NITTO Sugino MUKS DIACOMPE  
Panaracer KAZU TANGE SEIKI VIVA BROOKS

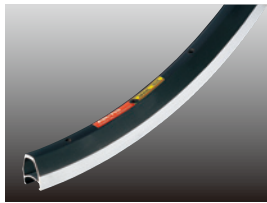
OPTION PARTS

			前後ファンダー本体 ¥6,300 (税込・取付別)
			前後ファンダーステー ダラムネジセット ¥2,100 (税込・取付別)
			— Honjo — 美しいアルミバフポリッシュで仕上げられた、日本のHONJO(本所)ファンダーの一品。RANをさらにトラディショナルに仕立てられます。
<b>NITTO</b> RANを伝統的なキャンピングモデルにカスタマイズ、日本のNITTO(日東)が誇る正確で美しい溶接で仕上げました。	フロントセット ¥18,900 (税込・取付別)	リアセット ¥18,900 (税込・取付別)	



— 旅へ誘うランドナースペック —  
緩やかに広がり、優しいラインを描くランドナーは、ツーリングでの理想のポジションを求めた最終形状とも言えます。B135ランドナー・パールシステムだけでなく、細部に亘るまで美しさの理想を貫き、ステーや背もたれ部分の配置に様式美を追求した、スワロー・ランドナーのためのオリジナルのバイブ製小型キャリアも日東製。また輸にも便利なブレーキケーブル上出しのダイヤコンベ204Nブレーキレバーには、グランコンベケーブルアジャスターが追加され、ブレーキ当たりの微細なセッティングが可能になりました。全てに亘りランドナーのためのスペックを具現化しています。





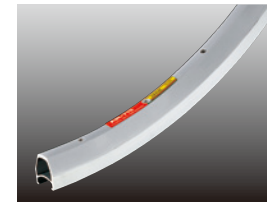
**ARAYA Rims**  
— AR-713 —

ダブルウォール断面高剛性ロードリムAR-713。チューブラーリムにも採用されるスリーブジョイントで、正確で強度の高い接合部も実現。サイド部分はCNC加工されブレーキ当たり面の平滑度も向上しています。

**CX MuddyFox CX**  
¥63,000 (税別¥60,000)



CX 460mm R  
(マディフォックスCX クリムソレンレッド)



**ARAYA Rims**  
— AR-713 —

加速性の向上も体感できる高剛性のAR-713。カラーコーディネートを考えてシルバー/CNCフィニッシュを特別に用意しました。32Hでしっかりと組まれたホイールは、メンテナンス性に優れます。

**EXR EXCELLA Race**  
¥89,250 (税別¥85,000)



EXR 560mm K  
(エクセラレース グロスブラック)



CX 520mm W  
(マディフォックスCX パールホワイト)



EXR 480mm W  
(エクセラレース パールホワイト)

**クロスバイクオリジナルの自負**  
今でこそ普通になったクロスバイクですが、マウンテンバイクさえも一般化しなかった1988年に、ARAYAでは700Cの新たなスポーツ車マディフォックスCXを発売しました。クロスの意味するCXは、シックスとも呼び、ライディングを模索し、見つける(SEEK)という意味も込められていました。  
開発から25年、クロスバイクの原点CXは、一般的なクロスバイクから、さらに発展します。速く走れるということは軽く走れること。このロードのメリットを生かし、限りなくスポーティなクロスバイクを目指しました。軽量なアルミフレームとカーボンフォークは準ロードジオメトリーでありながら拡張性も確保。高速走行性能も高いCXの素晴らしさは、今あらためて模索する必要はありません。再発見できる愉しみが待っているだけです。

**プロダクションロードの追求**  
競技機材であるロードは、速く走ることが第一義。また、速く走れるということは、軽く楽に走れることも可能。もっと多くの方に愉しんでもらいたい自転車です。しかし今までは、ロード特有のドロップハンドルのみならず、価格的高さともハードルになっていたのが現実でした。  
エクセラレースは、競技機材としても十分に通用するスペックを備えながらも、あらゆるハードルを低くしました。操作性に優れ、ドロップハンドルの障壁を低くしたデュアルコントロールレバーも、クラスを超えたスペックを奢り、実手に優しいハンドル形状を見直すことでしよう。細部に至るまでのパフォーマンスを追求しながらも、現実的な価格をも実現。プロダクションによるロードは、多くのライダーのためにあるはず。これもまた、ひとつの日本のスポーツ車のカタチと考えます。



— MFアイデンティティの顕れ —

ロードに近いスポーツクロスバイクとはいえ、状況に応じた少しためのタイヤ装着にも対応。410mmのショートリヤセンターでありながら、十分なタイヤクリアランスとギヤクリアランスを保持し、700x28Cまでのタイヤ装着を可能にしました。疲労強度も高い6061アルミ合金を、安定したビードを呈するTIGで的確に溶接されたフレームは、T4-T6熱処理が施され十分な強度と軽量性を確保。リヤエンドのアイレット(ダボ)やダブルレバー台座も装備して、高い拡張性を有した設計で、振動吸収性が高く軽量なカーボンフォークとのマッチングも考慮されています。

— スポーツクロスバイクの証 —

将来のロードバイクへのカスタマイズの可能性も考慮された、SHIMANOフラットバーロードコンポーネントをブレーキレバーまでフル装備。信頼性が高い基本性能を追求しました。レーザー刻印でARAYAロゴがアルミリングに配されたグリップは、ホロセットボルトで固定されるVISEタイプ。パーエンド取付の際などのグリップ移動も可能になっています。さらにハンドルバーはクラム径31.8のオーバーサイズを採用し、強度と剛性を向上させるだけでなく、現在のロードバイクのドロップバークラム径との互換性も有し、ハンドルバーのカスタマイズまでも考慮。スポーツクロスバイクを名乗るのに相応しい構成を誇ります。



— 周辺コンポもクラスアップ —

ハンドルバー&ステム、シートポストにはRITCHEYコンポーネントを採用。長い経験とフィードバックから考慮された設計とブランドは、流行に左右されない不動のポジションを確立しました。シートポストは左右2本のボルトでサドルを確実に固定し、微細な角度調整も可能となっています。またCOLUMBUS TASK-LIGHTのフルカーボンフォーク、SELLE ROYAL SETA サドル、SCHWALBE LUGANO タイヤなど、TIAGRAフルスペックだけでなく、周辺のコンポーネントもクラスアップの仕様で固め、ハイグレードで実戦的なロードのためにスペックされました。

— SHIMANO-105をレバーに奢る —

上位機種の高い基本性能を引き継ぎ、リヤ10段にグレードアップされ、スムーズで素早いシフトフィーリングを追求したSHIMANO TIAGRAフルセットで採用するだけでなく、ブレーキレバーには、ブレーキケーブルをバーテープに内蔵するSHIMANO-105を奢りました。ハブに至るまでTIAGRAで固められ、内蔵式グリススリーブを採用して高耐久性をも誇ります。ARAYA AR-713リムを、32本のブラックステンレススポークでアッセンブル。リムともに高い剛性のホイールを実現し、不要なたわみが少ないホイールは重量面だけでなく、体感的な加速性能の向上にも貢献しています。







**ARAYA Rims**  
— DS-700 —

ディスクブレーキ専用設計で、強度の高いダブルウォール断面で設計された新型DSシリーズ。DS-700は特に29erMTB用に開発されました。クロシェットデザインを採用したフック部で、タイヤの装着性も高めています。

**MF9 MuddyFox 29er**  
¥68,250 (税別¥65,000)



MF9 500mm W  
(マディフォックス29er パールホワイト)



MF9 500mm W  
(マディフォックス29er パールホワイト)



— インターフェイスへの考察 —

SELLE ROYALは、コンフォートサドルの分野で最先端の製品を生み出すイタリア最大のサドルブランド。軽量で適度なコンフォート性を有したSETAサドルを採用。デザインと機能だけでなく、立体的で美しいスマートなシェイプを生み出す丁寧なサドルトップ縫製も魅力です。軽量で、微細なノッチにより的確なコンフォート性の設定が可能なシートポストと、グリップのアルミリング部分にはARAYAロゴをレーザー刻印加工。VISEタイプのグリップは、フィールドでの的確な操作性を考慮したシンプルなグリップパターンを採用し、サドルとともにMTBのための最適なインターフェイスを追求しました。

— BB周辺もマディフォックスの個性 —

マスの大きくなりがちなる29erでも445mmのリヤセンターに抑え、29erのスタンダードタイヤである29×2.25タイヤとの十分なタイヤクリアランスを確保するために装備されたチェーンステーションを採用。MFEにも装備され、MFEではよりファットなタイヤ装着の可能性だけでなく、粘着質フィールドでの泥詰まりを低減を実現しました。大きなストレスが掛かるBBセットまでもSHIMANOのユニットBBセットを採用し、BB付近で横方向の幅を持たせた独自断面のハンドフォームダウンチューブと、SHIMANO ACERAクランクにより、ペダリング時のBB周辺の高い剛性を確保しています。



29erに見る開発姿勢

スローピングフレームをはじめ、AHEADシステム登場以前から、現在の基礎をなすハンドルステムを開発。常に進取の姿勢を持ったのもマディフォックスの特徴でした。大径ホイールによる画期的な走破性を誇る29erは、新たな形であるかもしれませんが、サイズ的なことと、価格面での特殊性が問題でもありません。29er独自の走行性能を維持しながらも、出来る限り日本人と日本の地形に合った設計を施し、MFEと共通コンセプトの高い基本性能と、クラスアップのスペックを目指しました。リムは、29erのためにいち早く開発したディスク専用のARAYAリムを採用。ARAYAはまた、創業100年以上のリムメーカーであり、リム開発製造技術を自負。今後も、リムと自転車の開発と歴史を刻みます。



**ARAYA Rims**  
— GP-622 —

高圧タイヤにも対応したクロシェットリム形状のタイヤフック部を有した新型H/Eリム。シンプルなデザインで軽量性と強度バランスを高次元で確立。カラーコーディネートを考慮したブラック/CNC仕上げを採用しました。



MFE 400mm K  
(マディフォックス・エキスパート グロスブラック)

フロントサスペンション対応設計  
(フロントサス装着時との比較図)



72度(470mmサイズ)でリジッドMTB特有の軽快なステアリング特性を生み出し、45mmまで下げたBBドロップで高速走行での安定性を高めました。またサスペンションフォークを装着すると70度ヘッドアングル、30mmのBBドロップで理想的なフロントサス・クロスカントリーMTBにカスタマイズが可能。リジッドフロントサス双方の特性を最大限に発揮。単にリジッドフォークを伸ばしたフロントサス対応設計とは違う、リジッドMTBを知り尽くした長年の実績によるマディフォックスのオリジナルフレーム設計です。(フロントサス装着イメージは、KOWA 100CEフロントサスを60mmトラベル設定で装着したものです。)



— フレームワークもクラスアップ —

疲労強度も高い6061-T6アルミ合金は、フレーム、そしてリジッドフロントフォークに採用され、軽量なブラットフレームは、11kg台のMTBを可能にしました。リヤエンドはコンパクトでありながら立体的なデザインで設計され、マウンテンバイク用としても十分な強度を獲得。ディスクブレーキ台座も一体成型され、ディスクブレーキにカスタマイズの際にも、ブレーキキャリアの正確なインストールを可能にしました。センターロックディスクマウントを装備したSHIMANO前後ハブを採用し、ハブを交換することなくディスクブレーキローターの取付が可能。細部に亘り将来のカスタマイズを考慮されたスペックも、マディフォックスの系譜をしっかりと継承しています。

— リヤ9段ACERAコンポーネント —

MEGA9、リヤ9段に昇華したSHIMANO ACERAコンポーネントをチェーンホイールまでセットで採用し、信頼性を確保。クラスを超えたスペックを誇ります。あらゆるフィールドをカバーするために34Tローギヤを装備した9段カセットギヤを装備し、ACERAドライブトレインコンポによるスムーズで軽いシフトフィールのラビッドファイヤープラスレバーは、エルゴノミックデザインで操作感がさらに向上しています。シンプルなグリップパターン有したVISEグリップは、2.5mmのアーレンキーでグリップの取り外しや移動が可能になり、パーエンド装着などに対応し、拡張性も考慮した仕様になっています。



マディフォックス、日本のMTB

1982年、日本で初めてマウンテンバイクの量産化に成功したのがマディフォックス。ARAYAでは、多くの対米輸出も行いながらも、日本の地形と日本人に合ったマウンテンバイクを追求。多くのファンを獲得したのが、1987年に提案したスローピングフレームであり、シリーズ中のエキスパートモデルでした。

リーズナブルな価格設定でありながらも、上位機種と遜色ないスペック。その後、日本有数MTBレーサーの初めてのバイクであったことから、基本性能の高さが窺えます。マディフォックス 30周年を迎え、血統を引き継いだMFEは、個性でもあるフルリジッドで、MFPで好評を博したフレームジオメトリを採用しました。また妥協を排した、ハイグレードスペックとコストパフォーマンスも実現。日本のオフロードや里山を訪ねるための、リジッドMTBの愉しみを提供します。



